

手先の動きと子どもの感情⑭

清水エミ子

子どもたちの指先を、見つめなおして見れば見るほど、いろいろな事柄を指先、手先が伝えてくれることに気づき、驚かされている毎日のだが、今回は、一つの大切な部分、事柄に気づくことができた。

○今までは、なるべく具体的に指先の表われをよみとらなくては努力していたため、自由な活動（自由遊び）の中でひとりひとりがえらんだ活動の場での指先、手先の表われを多く見ていたようだ。

○集団で、友だちと同じ活動をしている時の指先の表われ、を見つめなくてはならない（ひとりひとりがえらんだ場、状態とは違う）ことに気づいた。こんなことに気づいて見なおすと、

○指先、手先の動き、表われが、心をまっさきに伝えてくれていることを、今までよりいっそう強くつかむことができた。

それは、子どもたちの活動を見ていると、静的な活動より、動的な活動のほうが、よりすなおに、はっきりと、指先、手先が心を表現している。動的な行動の場の方が、静的行動の場の表われより、明るく、喜びや意欲を伝えてくれることを知らされた。

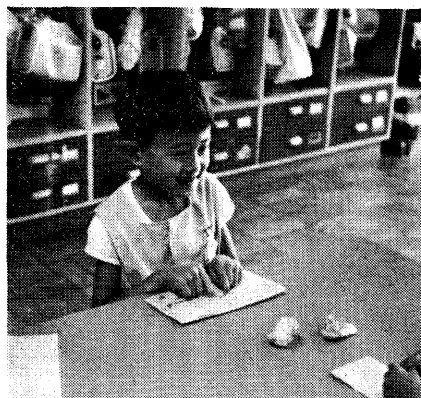
例①ゆきともの一斉活動の場での指先の表われ

小鳥作り（一斉の場での静的な活動）

封筒を利用して小鳥を作って遊ぶ、という活動をした時のゆきとは、

長細い封筒を机の上において、人差し指（左右いっしょ）でトントン、トントンと小さきみにたたき始めた。（写真①）

口からは「ぼく、小鳥知ってるよ。ようちえんの十姉妹じゃないの、カナリヤのと、しんせきにいるんだ」と机の向かいがわの友だちに話しかける。言葉がスラスラととび出しているし、顔も困った表情ではなく、自然の表情をしていた。



写真(1)

しかし指先は、特に左右の人差し指は、「困ったな。どうやって作ろうか。どうしようか」と、不安ととまどいを表わして知らせてきた。
「べにすずめっていうのもいるね」と人差し指を動かすの

に合わせるように、言葉が口からとび出してきた。しかし指先の力はまだぬけていなかった。

・ゆきともへの働きかけ

一斉的活動なのでゆきともひとりだけに特別なあつかいができない。（彼の安定するタイプに合わせたいのだが）そこで、グループ、クラス全体、彼個人とだれでもがかかりあうことのできることで安定させ、活動を前進させなくてはと考え、ひとつの環境を示してみた。（写真②）

各々の机の上に、小鳥のからだを作る材料（紙くずを袋の中につめる）をそろえてみた。



写真(2)

ちり紙、新聞紙、などをおいた。
ゆきともは、環境としておいた紙の材料を、指先をかくそろえ、第二関節までをつかってなでみていた。
紙材料（環境）をさわることによって、



写真(3)

どうやり始めてよい
か、のとまどいが解
かれ、指先から力が
ぬけ、紙をまるめ、
袋につっこんでいっ
た。

この時のゆきとも
の指先、手先は、自
信をもら紙をわしづ
かみにして、封筒の

袋の中におしこめるようになった。

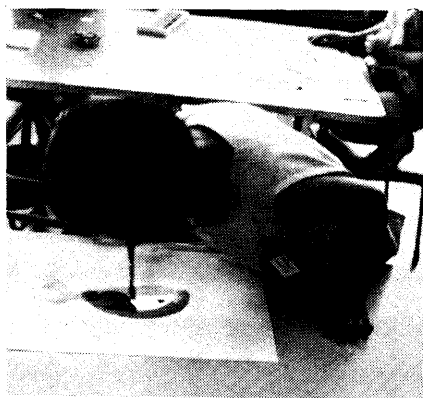
(写真③)

例② ふみ子・とも子の絵具画

魚をかこう (海底作りをした) の一斉活動の場

このふたりは、幼稚園入園以後なかよしになったため、いつ
でも近くにいたがるし、いつの間にかいっしょに活動している
仲間なのだ。

大きめの画用紙を前にし、赤の絵具を持ったふみ子は、左手
の親指全部を机の上に出し、ほかの四本の指は机のうらがわ
にまわされ、しっかり机をつかみ、不安ととまどいを伝えてき
た。



写真(4)

右の、絵筆を持った指も、手先も、宙にういてしまい、画用
紙の上にはなかなかのせることができなかった。

とも子は、左指先、手先は紙の上でなく、机の上に、第一、
第二関節を折りまげ、ぎゅっと力をいれておき、さあかこうか
な、という心の動きと、どうかこうかという不安の波を、第一
関節をビクビク動かすことで、まよい、とまどいを伝えてきて
いた。(写真④)

・ふみ子・とも子への働きかけ

ふみ子よりとも子のほうがかこうとする態勢ができていたし、
もう少し時間をかければ働きかけなくてもかき出したと思われ
るようだったので、
とも子に向かつて

保「とも子ちゃん、

ふみ子ちゃんに

この絵具をいっ

しょにつかって

かきましょと

さそってごらん

なさい」と、赤

色の絵具つぼを

さし出してみた。(ふみ子は赤色が好きなので)

とも子「うん、赤か、きんぎょみたいだね」と答え

とも子「ふみ子ちゃん、これでいつしよにかこうか」

ふみ子「うんいいよ。あたしこいかくんだ。赤いさかなはひごいなんだよ」

こんな対話の時の指先、手先は、らくになり、ダラリと机の上にのせられていた。

そこで、不安の解けたのをみはからって、かき出せるようなことばを考えた。

保「そのほか何色の絵具がいますか」

ふみ子「黒、黄色、白、目をかいて、さかなのもようかくんだもの」

とも子「からだは赤かな」

私はふたりのいりようだという色を、あき箱にとりわけ、机の上に環境としておいてみた。(この場合ふみ子・とも子に準備させたのでは緊張は解けない)

ふみ子「全部使えるんだね」といいながら全部の絵筆でコトコト絵具入れのそこをつついてみて、絵具をかきまわしてみた。この時の左手の指は、かるくそろって机の上ののっていた。

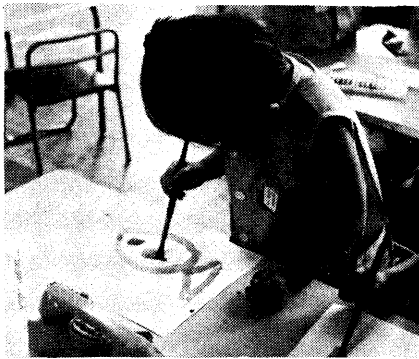
とも子が「さあ、かこうか」と声をかけたのを合図に、ふみ

子は赤の筆を画用紙にのせ、一気に魚の形をかいた。

この時は、先ほどの左の手指と同じように、親指が机の上、ほかの指は机のうらがわにまわり、力を入れて机をおさえていた。机の上の親指一本で画用紙が動かないようにおさえていたのだ。また緊張が見られたので

保「ふみ子ちゃん、かわいさかな、こいかな。たのしそうに泳いでるみたいね」と声をかけてみた。そしていつもいじっている電話のおもちやをとって机の上ののせてみた。このあとは、左手全部を机の上にのせて魚のからだをぬりつぶしていた。

(写真⑤)



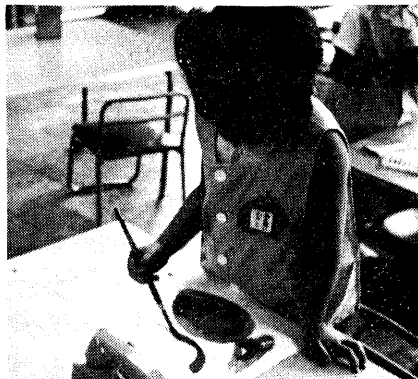
写真(5)

つぎに、絵具がかわかないうちに、さかなの目をかいてしまい、絵具がにじんだのを見たふみ子の指先は、

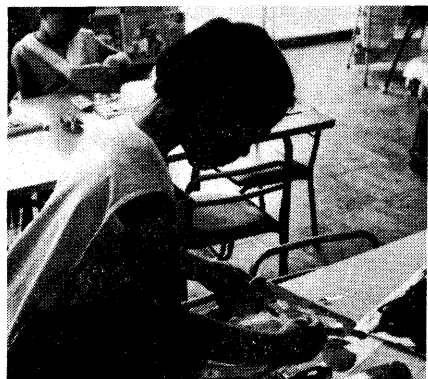
からだの横においてあつたいすの背をにぎりしめ、しまった、これは失敗だと



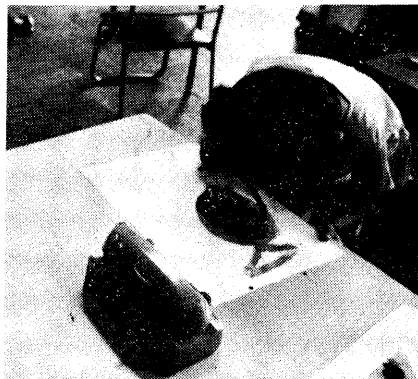
写真(8)



写真(6)



写真(9)



写真(7)

いう苦しみを伝えてきたのだが、この時の顔も、からだ全体からも、苦しみやとまどいは感じられなかった。かえって、「このさかな、泣き虫こいなね。あついよ、えーんえーん、てないているの」などと、失敗をまぎらせるためなのか、おどけた言葉と、中途半ばな笑いすら感じられた。

この時、とも子も指先をさかんに動かして、心のみだれ、不安を伝えてきたので、よく見ると、さかなのせんとバックをぬった絵具がにじみ合ってしまったていた。

するとふみ子が、黒の絵具をとも子に示し、「よるの海にすればいいじゃない」と声をかけた。とも子は、手で黒の絵具を取り、黒波をかき始めた。

左手は、まえと同じように第一、第二関節がおりまげられて机の上にあった。

保「夜は、泳ぐとききをつけなくちゃね。海の草にひっかかりますよ」ととも子にいうともふみにいうともなく声をかけた。

その時、とも子の手先はらくに自分のほほにあてられ、「海の草ってわかめだね」といって、海藻をかきたしていた。

この二人が絵具で魚をかく活動を見てもはつきりわかるように、

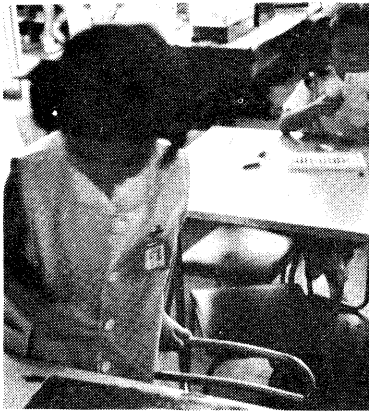
・保育者が示す環境の刺激によって、不安やとまどいを少しでも解決していくことができるのだ。次の瞬間、また緊張やとまどいを、指先はいちはやく表わし、次の指導、環境を要求してくるのだ。

言葉でのよびかけだけでなく、物による環境を示していくことをいっしょに指導していくと、より早く不安やとまどいが解決していくことがわかった。

決していくことがわかった。

環境として示した場合、そのものに一番早くふれることのできる指が、一番すなおに、さわったり、つかんだり、そっとよりそったりすることが安定し、前進していくことができたようだった。(写真(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12))

例③ かおるのさかなやのお金作りの一斉(グループでの活動の場



写真(10)



写真(11)



写真(12)

さかなをかいいたグループが、さー、いらっしやい」とかさながら売声を出したので、かおるのグループは

「あたしたち、さかなやさんのお金作ってかいてゆくね」

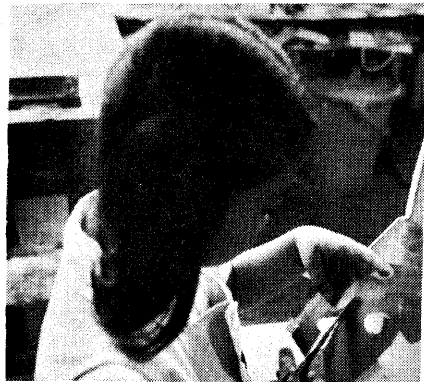
と提案し、折紙を持ってきてお金作りを始めた。(写真(13)(14)

はさみを持ってお金を切り始めようとする時の指先は、緊張と不安をピクピクと伝えてきた。左手の折紙(お金がかいてある)を持つ手先、指先は、ひっきりなしに動き、紙を落としそうになっていた。

この動作は、自分が進んでやろうとして、自信をもって始めた活動のため、顔や口はたのしそうにとりなりのM子に



写真(13)



写真(14)



写真(15)

「たかいかな、あのさかな」と話しかけて笑ったりしているのだが、左手の指先は紙やはさみを持っていても、ピクピクと動き、不安を伝えてきている。

私は大いそぎではかの折紙でサイフを作り、机の上におき保「この中に入れませんか。お金をたくさんにしてください」と声をかけてみた。(写真(15)(16)(17)

かおる「アッ、おさいふ、おさいふだね」と左の手のひらで、さいふを、ピシャピシャたたいてみた。そしてとなりのみよ子に「いっしょにいれる?」と話しかけた。

このあと、かおるもみよ子も、指先の力をぬき、らくに、た



写真(16)



写真(17)

のしんでお金（十円、五十円、百円）を作ってさいふの中に入
れ、さいふのふくらみをたのしみ、お金を入れてはさいふをた
たいていた。

かおるの、紙を切る時の指先の不安を、正しく読みとらなか
ったら、かおる、みよ子はなかなかお金を切れず、切ったお金
も机の上にのせただけで、ためる、たくさんになる、という喜
びを知ることができずに終わってしまったのではないかと思わ
れるのだ。

指先の緊張、不安をよみとったので、さいふという環境を示
すことができた。そのため、たのしんでお金を作り、さかなや

れた。

例④ まさひこがからだ全体を動かしている時の指先

子どもたちの指先を見つめていると、不安やとまどい、緊
張、などに多く気づくことができた（よみとりやすいので）
が、喜び、意欲などという積極的な表われのよみとりができ
にくかったことに気づいた。

顔やからだ全体での喜び、意欲の表われより、指先での喜
び、意欲の表われはおそいのだろうか、などと思えてきた。
喜び、意欲の表われをつかうという気持で、指先、手先を

さんごっこに発展してゆくことができた。
（このあとかおるとみよ子は、さかなを
入れる袋を新聞紙で作っていた）

静的活動をしている時は、特に正しい
よみとりが、正しい時をつかませ、正し
い環境を気づかせ、活動を発展させるこ
とができる。子どもたち自身が活動を展
開させてゆくエネルギーが生まれてくる
のだということを、このかおるたちのゲ
ループのお金作りをみて強く感じさせら

見つめてみると、私の、指先、手先の見つめ方に、かたよりのあったことに気づいた。

今までは、ついよみとりよい、見つめよい、静かな場面での見つめ、よみとりが多かったこと、動いていても、手先、指先をよみとる時の瞬間は静的であったことに気づいた。男の子も女の子も動きまわっている時の指先、手先の見つめ、よみとりをしていなかったのだ。

まさひこがよしたかと、怪獣ごっこをしていた。自分たちで好きなレコードをかけて怪獣と正義の味方になって戦っていた。

この時のまさひこの指先は、今までみおとしていた指先の動



写真(18)



写真(19)

きを知らせてくれた。むだな力はまったく入っておらず、らくに、リズムカルに、指全体が調和のとれた動きをしているのだ。快い、喜びの表われなのだ。ピクッと動くのではなく、ゆっくりそっと動いている。(写真(18)(19))

フィルムにおさめて見るのでないと、文字や言葉では表現しにくい、ゆったりとした表われをしているのだ。

怪獣になって相手にいどみかかっていく時なども、意欲のある指先の動きのため、はげしさはあるがこきざみに、ぎこちなさのない動きをしている。それに、指が一本一本バラバラに動くのではなく、喜び、意欲を表わす場合は、五本あるいは四本が、いっしょに同じリズムで動いていることをよみとった。

不安、とまどいは、力がはいり、一本一本がバラバラに動いたり、まげられたり、つまんだり、という表われが多かったが、快、喜びなどは、いっしょにゆっくりと動き、まげ、つかむという表われになっていた。どんなに全身の力を入れて動きまわっても、たのしみ、喜びの心で動いている時の指先、手先は、らくに、やわらかく、力

をぬいて動いている。

しかし、動いているうちの、どんな小さな不安、緊張も、手先、指先は間違ひなくつかみ、それを瞬間に表わしている。

相手の手が自分の頭にうちおろされそうになった瞬間、手先には力がいり、自分の頭上にもち上げられ、それをおける動きになっている。

頭の上にもち上げる前からの横、あるいはそのある場所、ピクッと合図がはいり頭の上に動き始めるのだ。

このように、瞬間に伝わる心の変化を見つめ、物や言葉でまちがいのない環境を示し、そなえることによって、子どもたちがスムーズに活動を展開してゆけるのだと気づいた。絵をかいているから絵具が環境になってゆくのではない（絵をかくことに関係のあるものが環境ではない）ということも今回の指先の見つめで教えられた。絵をかくことに関係のないおもちゃの電話が、よい環境、心の安定をとりもどすのに必要であったことなど……。

その子、ひとりひとりが、気持よく動きまわり、現在の場より成長し、何かを人生の経験としてつかみとることができるために、指先、手先の表われを見つめ、顔やからだ全体でよみとれない要求を知ってゆくことが大切だと思う。（蒲田幼稚園）

